

特許協力条約

P C T

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

REC'D 22 DEC 2005

WIPO

PCT

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[P C T 36 条及び P C T 規則 70]

出願人又は代理人 の書類記号 YCT-1005	今後の手続きについては、様式 P C T / I P E A / 4 1 6 を参照すること。	
国際出願番号 P C T / J P 2 0 0 5 / 0 0 1 7 6 4	国際出願日 (日.月.年) 07.02.2005	優先日 (日.月.年) 06.02.2004
国際特許分類 (I P C) Int.Cl. C07D217/24 (2006.01), A61K31/472 (2006.01), A61K31/496 (2006.01), A61K31/5377 (2006.01), A61P35/00 (2006.01), A61P43/00 (2006.01), C07D401/04 (2006.01)		
出願人（氏名又は名称） 中外製薬株式会社		

1. この報告書は、P C T 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (P C T 36 条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. 附属書類は全部で ページである。

補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (P C T 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)

第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. 電子媒体は全部で ページである。
(電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
(実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
 第 II 欄 優先権
 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
 第 V 欄 P C T 35 条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第 VI 欄 ある種の引用文献
 第 VII 欄 国際出願の不備
 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 18.03.2005	国際予備審査報告を作成した日 09.12.2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 安川 聰 電話番号 03-3581-1101 内線 3452
	4 C 3039

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- 出願時の言語による国際出願
- 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
- 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
- 国際公開 (PCT規則12.4(a))
- 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条 (PCT14条) の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

- 出願時の国際出願書類

- 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

- 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

- 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

- 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図
<input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること)		
<input type="checkbox"/> 配列表に関するテーブル (具体的に記載すること)	_____	

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図
<input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること)		
<input type="checkbox"/> 配列表に関するテーブル (具体的に記載すること)	_____	

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 4-6, 9-14, 19, 20	有
	請求の範囲 1-3, 7, 8, 15-18, 21-23	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 4-6, 9-14	有
	請求の範囲 1-3, 7, 8, 15-23	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-23	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : US 4942163 A (E. I. DU PONT DE NEMOURS AND COMPANY) 1990.07.17

文献2 : YAGI, N. et al, Synthesis of isocoumarin derivatives. II. Synthesis of N-substituted 7-acylamino-3-phenylisocarbostyryl and 6-phenylbenzimidazo[2,1-a]isoquinoline derivatives and their fluorescence spectra, Yuki Gosei Kagaku Kyokaishi, 1969, Vol. 27, No. 1, p. 51-8

文献3 : CHO, W. J. et al, Synthesis and biological evaluation of 3-arylisquinolines as antitumor agents, Bioorg. Med. Chem. Lett., 1998, Vol. 8, No. 1, p. 41-6

文献4 : YAGI, N. et al, Isocoumarin derivatives. III. 7-Substituted-3-phenylisocoumarins and related compounds and their fluorescence spectra, Yuki Gosei Kagaku Kyokaishi, 1969, Vol. 27, No. 6, p. 564-69

国際調査報告において引用された上記文献1には、7-(dimethylamino)-3-(1-naphthalenyl)-1-(2H)-isoquinolinone が記載されており (Claim6, TABLE1 参照)、該化合物が抗癌活性を有することが示されている (Claim36, TABLE7 参照)。

同文献2には、7-Amino-3-phenylisocoumarin の誘導体が記載されている (第52頁表1 参照)。

同文献3には、3-arylisquinolines、特に、3-phenylisoquinolin-1(2H)-one が抗癌活性を有することが記載されている (第43頁 TableI、第44頁 FigureI 参照)

補充欄

いづれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

○請求の範囲 1 - 3, 7, 8, 15 - 18, 21 - 23

本願上記請求の範囲に係る発明は、上記文献 1, 2 に記載されており、文献 1, 2 に対して新規性、進歩性を有さない。

○請求の範囲 15 - 20

文献 1 に記載の化合物は、本願請求の範囲 1 における [化 1] の X に相当する基が、ナフタレン基であるが、文献 3 に記載のように、3-phenylisoquinolin-1(2H)-one が抗癌活性を有することは公知の事項であるので、構造、及び、薬理作用の類似性に着目して、同等の抗癌活性を期待しつつ、文献 1 に記載の発明において、ナフタレン基をフェニル基に置換することは、当業者が容易になし得た事項と認められる。

そして、その効果が格別であるとも認められない。

よって、上記請求の範囲に係る発明は、上記文献 1, 3 に対して進歩性を有さない。

○請求の範囲 4 - 6, 9 - 14

本願上記請求の範囲に係る発明は、上記文献 1 - 4 に記載も示唆もされておらず、文献 1 - 4 に対して新規性、進歩性を有する。